

朗読愛好家の皆様への要望事項

音声ブログの登場によって、朗読のネット配信は簡単にできるようになっています。関心のある方は、是非、積極的な朗読発信をお願いします。

コメントがゼロが続いたとしても、くじけることなく、ブログ登録数、アクセス数によって、物言わぬ聴き手の期待を感じてください。

ブログやHPにアップすれば、アーカイブ化を通じてきっと広く聴かれるようになる時が来ます。「日本全体の大朗読アーカイブズの構築作業の一端を担っているのだ！」という意識を持って朗読発信を続けてくださるようお願いします。

< 説明 >

朗読の世界では、これまで中心だった福祉ボランティアの皆さんに留まらず、自己表現の一環として朗読をし、それを発信したいと考える皆さんも目立って増えつつあり、「朗読愛好家」の裾野は確実に広がりつつあります。

インターネット技術の飛躍的進歩により、簡易に朗読を含む音声を送信できるボイスブログが登場して、まだ2年も経っていませんが、それを利用して朗読を送信するサイトが続々と生まれています。

朗読を聴く愛好家においても、無料で素晴らしい朗読作品を聴くことができる機会が増え、隠れた名作や優れた小品を発見し、思わず惹き込まれることもしばしばです。文藝文化は、朗読のネット配信によってさらに活性化されようとしています。

朗読のネット配信を始められた方の多くは、もともと大好きな本を、思い切り朗読してみたい！ 誰かに聴いてもらいたい！ という気持ちが根っこにあったものと思います。朗読サークルに入っておられる方は、先生や仲間とともに楽しみながら読み、時々朗読会を開いて臨場感のある朗読を味わうということもやってこられたことでしょう。ただ、他方で、朗読が好きであっても、朗読サークルや教室に入っていない方も多く、それらが近場にあるわけでもなし、何か敷居が高そうだし、入るのも人間関係がいろいろあるだろうし・・・諸々あって何となくそういう気になれない・・・と漠然と思っている方も少なくないのではないのでしょうか。

音声ブログの登場は、朗読サークルに入っている方もいない方も含めて、ご自分の朗読を広く多くの人々に聴いてもらえる手段として、熱い視線を持って迎えられたと想像します。

もちろん、「簡便な音声ブログ」といっても、録音はどうやってするのか？ アップするのにはどうするのか？ mp3 と wave って何？ 人によっては、パソコンってそもそもどうやって操作するのか？ という初歩的なところから取り組み、四苦八苦しなながら、やっとブログや HP の公開にこぎつけたというのが多くのケースだったことでしょう。そういう面倒な作業は、他のことであれば、投げ出してしまうかもしれません。しかし、そうはならなかったのは、きっと、「この朗読のネット配信は、自分の生き甲斐にすることができるかもしれない・・・」という気持ちが潜在的にあったからではないでしょうか。自己表現欲というのは多かれ少なかれ誰にでもありますし、自分の家において、自分のペースで、自分の流儀で表現を発信できる、しかも自分の大好きな作品を選んで発信できる・・・これは、朗読好きならきっと気持ちが揺さぶられることでしょう。

実際、今、公開されている朗読ブログや HP を拝見すると、朗読対象の作品の選択にもその方のこだわりが強く感じられますし、同じ文学者のものであっても、その中から選択する作品の傾向は他の方とはまた異なり、全体としてその方の関心・趣味の傾向がにじみ出たものになっています。ブログのデザインも、シックなものから、にぎやかなものまで、和風・洋風・メルヘン風・・・などなど、声の雰囲気と合せて、まさに自己表現のかたまりのような世界になっています。

こういった朗読発信の世界が生まれたことは、これまでのプロによるカセット・CD がほとんどだった朗読の流通の世界に大きなインパクトをもたらしつつあります。朗読発信の手段が整いつつありますから、あとは以前から述べているように、著作権との関係での環境を整備して、少しでも朗読のネット発信の対象とできる作品の選択肢を広げることにより、ネット配信という手段を得て朗読をひとつの生き甲斐にされつつ皆さんの自己表現の願いも、より一層かなえられるようになることでしょう。また、聴き手側からすると、多彩な朗読作品が味わえる百花繚乱の世界が期待でき、文藝文化の楽しみ方をより深いものにすることができると思います。

さて、そうやって、朗読愛好家の皆さんが、自己表現の絶好の手段だと考えて、苦労して朗読ブログを立ち上げることができた時は、喜びもひとしおだったことでしょう。そして、いよいよ、好きな作品を朗読して発信を始める・・・。

・・・とここまではいいのかもしれませんが、インターネットを通じて、間違いなく世界に自分の朗読が発信されていることはわかる・・・しかし、何の反応もなく、本当に発信できているのか実感が持てない、という壁というか不満というか、そういうものにぶつかるケースも少なくないのではないのでしょうか？

リスナー数もなかなか増えない、コメント欄は、来る日も来る日も「0」「0」「0」・・・こんなに一生懸命発信しているのに、手ごたえがほとんど感じられなくて、ああ空しい・・・と感じたり・・・。いろいろな朗読ブログを拝見していると、「どんなコメントでもいいからお寄せください」という記述をしばしば見かけます。それもそんな気持ちの現れだろうと思います。

人間、一人でいて孤独を感じるかもしれないが、誰かと接していながら無視されるというほうがよほど孤独感が募るものだといわれます。自分の朗読を世界に広く発信という行動をとっていながら無視されている・・・という気持ちがもたげてくることもあるかもしれません。

でも、そこでくじけないでいただきたいのです。反応がないのは、単に、ブログやHPの存在が十分知られていないだけなのです。そして、存在が知られたとしても、シャイなリスナーが圧倒的多数だからなのです。良質の朗読ブログやHPには、必ずリスナーがつきます。リスナー数やアクセス数が何よりの証左です。気に入らなければアクセスしないだけのことですから、リスナー数が増え、アクセス数が増えているということは、認知度も上がり、リスナーに気に入ってもらっていることの証しなのです。

良質な朗読ブログには、必ず良質なリスナーが登録し、サイレントマジョリティーとして、日々、皆さんの朗読に聴き入っていることでしょう。

ただ、せっかく立ち上げた朗読ブログですから、存在が認識されないと意味がありません。立ち上げたら是非、Yahoo!その他の検索サイトに必ず登録されるとともに、「お話Pod」のような、朗読作品を常時受け付けて、リンク集を充実させているようなサイトへの登録をお願いしたいと思います。

teabreaktが立ち上げた『朗読アーカイブズ』シリーズは、ブログの存在の紹介だけでなく、朗読愛好家の皆さんが発信する個別の朗読作品に、リスナーの方がより一層アクセスしやすくし、親しんでいただく方法のひとつとして作ったものです。こういう形にすると、有名作品の聴き比べも簡単にできますし、意外な作家の意外な作品を見つけることができ、作家や文藝作品をより身近なものに感じるすることができます。

こういった形での「アーカイブ」がそこかしこに整備されれば、朗読愛好家

の皆さんが発信される朗読作品を埋もれさせることなく、世間に広く知らしめ、リスナーに確実に届けることができるルートとして機能することでしょう。

ですから、朗読ブログを発信される方は、コメントなどの反応が少なくても、決して空しいと思うことなく、登録リスナーの声なき声・期待を感じていただいて、着実に朗読作品を蓄積していただければ、と思うのです。是非、

日本全体の大朗読アーカイブズの構築作業の一端を担っているのだ！

という意識を持っていただき、多彩で魅力的な朗読作品の発信をお願いいたします。有名でないけれども優れた作品というのは、著作権切れのものの中にもまだまだ多数あると思います。

いずれ、著作権者の皆さんの理解も進み、著作権のある現代作品であっても朗読発信ができるものが増えて、選択肢も大きく広がることでしょう。そうすると、「朗読アーカイブズ」の類いがいくつも立ち上がって、そのアーカイブズのリンク集がまたできて・・・という世界も決して非現実的なことではないでしょう。

一方で、ポッドキャスト、i - Pod のような聴く技術もどんどん進んでいます。必ずや、近い将来、日本の文藝作品の楽しみ方、味わい方の幅も広がり、文藝文化の深みも飛躍的に増すものと確信しています。

(補足1)

朗読対象としうる作品テキストとしては、以下のものがあります。

[青空文庫](#) 著作権の保護期間が切れたものを、ボランティアの皆さんが入力して公開しているもの。近代文学作品が中心。随筆を集めた「[随筆計画 2000](#)」もその中に含まれています。

[プロジェクト杉田玄白](#) 著作権が切れた外国作品の翻訳を行い、自由な使用・利用に供しているもの。

個別に著作権の許諾がなされているもの。

現在、[日本ペンクラブ：電子文藝館](#) の掲載作品を、非営利・無償での朗読のネット配信に開放していただけるよう、要望していますが、現時点ではまだ、webでの閲覧のみです。

(補足2)

アーカイブ化しやすくするために、ブログ側で工夫をお願いしたいこと。

そのブログで、どういう作家のどういう作品がアップされているか、どこかでわかるようにまとめていただきたいこと。

ブログのカレンダーを遡ってチェックしていくほかないと、どうしても埋もれてしまい、死蔵されるおそれがあります。

アーカイブを作るときには、作品名を、コピー&ペーストで移していく作業を繰り返します。そのため、ブログの「カテゴリー」欄で、可能であれば、作品ごとにまとめていただきたいこと。ひとつの作品を複数ファイルに分けてアップしている場合、特に効果大です。

ただ、作品ごとにカテゴリー分けをすると、量が多くなってしまう可能性がありますので、その場合は、作家ごとのカテゴリー分けでも構いません。本当は、「カテゴリー」で作家ごと、「サブカテゴリー」で作品ごとに設定できることが最適なのですが、そこはブログの設定可能性次第です。